

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
【部門区分】第3部門第3区分  
【発行日】平成17年10月6日(2005.10.6)

【公表番号】特表2001-511215(P2001-511215A)

【公表日】平成13年8月7日(2001.8.7)

【出願番号】特願平10-535063

【国際特許分類第7版】

C 0 8 F 10/06

C 0 8 F 4/64

C 0 8 F 290/04

【F I】

C 0 8 F 10/06

C 0 8 F 4/64

C 0 8 F 290/04

【手続補正書】

【提出日】平成17年1月26日(2005.1.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

# 手 続 補 正 書

平成17年1月26日



特許庁長官 殿

1 事件の表示

平成10年特許願第535063号

2 補正をする者

名 称 エクソンモービル・ケミカル・パテント・インク

3 代 理 人

住 所 東京都千代田区永田町1丁目11番28号  
相互永田町ビルディング 8階

電話 3581-9371

氏 名 (7101) 弁理士 山 崎 行 造

4 補正対象書類名

請求の範囲



5 補正対象項目名

請求の範囲

6 補正の内容

別紙のとおり。

方 式 登 録



1. 請求の範囲を以下の通り訂正する。
  - 「1. 結晶性ポリプロピレン主鎖、ポリエチレンの枝、及び、所望により、前記主鎖、前記枝、又は前記主鎖と前記枝の両方中に存在する1種以上のモノマーを有する枝分れオレフィンコポリマーを含むポリオレフィンであって、前記枝分れオレフィンコポリマーの総モノマー含有率が0乃至20モル%であり、そしてさらに、前記アイソタクチックポリプロピレン対前記ポリエチレンの質量比率が99.9：0.1乃至50：50の範囲内である、ポリオレフィン。
  2. 結晶性ポリプロピレンがアイソタクチックポリプロピレンである、請求項1のポリオレフィン。
  3. モノマーが、前記主鎖と前記枝のいずれにも存在しない、請求項1のポリオレフィン。
  4. 1種以上のモノマーが前記主鎖中に存在する、請求項1のポリオレフィン。
  5. 前記1種以上のモノマーが、エチレン、 $C_4 \sim C_{20}$   $\alpha$ -オレフィン、ジエム状に二置換されたモノマー、 $C_5 \sim C_{25}$  環式オレフィン、 $C_5 \sim C_{25}$  スチレン系オレフィン、及び前記環式及びスチレン系オレフィンの少炭素数 ( $C_3 \sim C_8$ ) アルキル置換同族体から成る群から選択される、請求項4のポリオレフィン。
  6. 1種以上のモノマーが前記枝中に存在する、請求項1のポリオレフィン。
  7. 前記1種以上のモノマーが、 $C_3 \sim C_{20}$   $\alpha$ -オレフィン、ジエム状に二置換されたモノマー、 $C_5 \sim C_{25}$  環式オレフィン、 $C_5 \sim C_{25}$  スチレン系オレフィン、及び前記環式及びスチレン系オレフィンの少炭素数 ( $C_3 \sim C_8$ ) アルキル置換同族体から成る群から選択される、請求項6のポリオレフィン。
  8. 前記1種以上のモノマーが前記枝分れオレフィンコポリマーの3乃至20モル%を構成する、請求項1のポリオレフィン。
  9. 前記1種以上のモノマーが前記枝分れオレフィンコポリマーの5乃至17モル%を構成する、請求項8のポリオレフィン。
  10. 前記アイソタクチックポリプロピレン対前記ポリエチレンの質量比率が

95 : 5乃至50 : 50の範囲内である、請求項1のポリオレフィン。

11. a) 40%より多くの連鎖末端基不飽和を有するコポリマーを形成するのに十分な条件下の重合反応において、エチレンを、所望により1種以上の共重合可能なモノマーと、共重合する工程、
  - b) アイソタクチックポリプロピレンを製造することができるキラルで立体堅固な遷移金属触媒を使用する適するポリプロピレン重合条件下の重合反応器中において、a)の生成物を、プロピレン及び所望により1種以上の共重合可能なモノマーと、共重合する工程、及び
  - c) 枝分れオレフィンコポリマーを回収する工程、を含む方法によって製造された、請求項1のポリオレフィン。
12. 工程a)が、前記エチレン及び1種以上の共重合可能なモノマーがアルモキサン助触媒によって活性化された遷移金属オレフィン重合触媒と接触させられ、アルミニウム対遷移金属のモル比が220 : 1未満である溶液法によって行われる、請求項11のポリオレフィン。
13. 工程b)が、溶液、スラリー、又は気相重合によって別個の反応において行われる、請求項11のポリオレフィン。
14. 工程b)の前記キラルで立体堅固な遷移金属触媒化合物が、アルモキサン助触媒又は非配位性アニオン先駆体によって活性化される、請求項11のポリオレフィン。
15. a) 40%より多くの連鎖末端基不飽和を有するコポリマーを形成するのに十分な条件下の重合反応において、エチレンを、所望により1種以上の共重合可能なモノマーと、共重合する工程、
  - b) アイソタクチックポリプロピレンを製造することができるキラルで立体堅固な遷移金属触媒を使用する適するポリプロピレン重合条件下の重合反応器中において、a)の生成物を、プロピレン及び所望により1種以上の共重合可能なモノマーと、共重合する工程、及び
  - c) 枝分れオレフィンコポリマーを回収する工程、を含む、枝分れオレフィンコポリマーを製造する方法。
16. 工程a)が、前記エチレン及び1種以上の共重合可能なモノマーがアルモ

キサン助触媒によって活性化された遷移金属オレフィン重合触媒と接触させられ、アルミニウム対遷移金属のモル比が220：1未満である溶液法によって行われる、請求項15の方法。

17. 工程b) が、溶液、スラリー、又は気相重合によって別個の反応において行われる、請求項15の方法。
18. 工程b) の前記キラルで立体堅固な遷移金属触媒化合物が、アルモキサン助触媒又は非配位性アニオン先駆体によって活性化される、請求項15の方法。」